

## 平成 29 年度 第 2 回連携テーマ部会 議事概要

■日時：平成 29 年 1 月 17 日（火） 9:30~12:00

■場所：高知共済会館 3 階 大ホール

■出席：委員 9 人のうち、7 人が参加（名簿は「H28 委員名簿」のとおり）

### 【①担い手の育成・確保】

#### （A 委員）

・【資料 2 P7】林業について、新規就業者が H27 年で 7 人となっているが、どういった所へ就職しているのか。また、到達目標は H29 で 62 人、H31 で 68 人となっているが、H27 の 7 人からどのようにして取り組むのか。

・コンテンツ産業について、高知の強み（セールスポイント）とはなにか。

#### ⇒（林業振興・環境部）

・新規就業者の就職先は、基本的には森林組合、林業事業者等。

・7 名については、あくまで林業労働力確保支援センターを通じて就業した方の人数であり、この他にも直接事業体へ就職する場合や、林業学校を通じて就職される方などもある。7 名については、全体の内数。

#### ⇒（文化生活部）

・コンテンツ産業については、ソーシャルゲームの集積を目指し、ゲーム開発を支援した結果、6 タイトルをリリースしている。

県内企業と県外ゲーム会社と協業で取り組みを進めており、全国的にも認知度が高まっている。

コンテンツ産業は場所を選ばないので、立地についてもきめ細かい補助金を作って進めている。これまでに立地していただいた方の中には業界の中でも知名度の高い方もおいでるので、そういった方のネットワークや口コミでの相談もある。

#### （B 委員）

・【資料 1 P7】商工業分野の産業人材の育成・確保の K P I（ジョブカフェうちが実施するしごと体験講習受講者の正規雇用率、県外大学生の U ターン就職率）について、進捗が悪い。平成 29 年度の取り組みは平成 28 年度からあまり変化がないようだが、H31 の K P I について、どの項目は達成可能と見込んでいるのか。また、見直し等は考えているのか。

#### ⇒（商工労働部）

・県内の求人倍率は上がっており、ジョブカフェうちへの相談件数も減ってきている状況。現時点では、部として H31 の K P I を変更することの議論はしていない。H29 は再度取り組みを進めていく中で、状況を見極めたい。

・U I ターンについては、事業承継・人材確保センターと移住のシステムを同調させて取り組んでいる。K P I については H29 の様子も見ながら検討をしていきたい。

## (C委員)

- ・生産性向上、働き方改革については、これまでのテレワーク等のブームとは異なり、本気で取り組む必要がある。
- ・働き方変革について、高知の仕事のやり方を変えるには県庁、市町村の働き方を変えないと普及しない。この会議の進め方についても、例えば説明用のビデオを撮影して、委員には事前に資料と映像を見てもらった上で、会議では説明を省略し、主に討議をするようにできないか。
- ・IoTについて、単に一部の工場の中で使うことではなく、子育てから介護まで全てのことにIoTを使う世の中になっていく中で、担い手をどう育成するか。
- ・担い手として若者を確保する観点から、例えばユズの剪定技術のプロになりませんか、というアプローチもあるのではないか。その際、高知の現場まで来なくとも、剪定のビデオ（動画サイト等）を一定見せることで、イメージを掴みやすくなり、訴求力があると思う。

農業の産地提案、水産のライフサイクル提案も、まずは入口としてPRしたい内容の可視化ができることがたくさんあると思う。それを誰もが見られるようにし、すそ野を広げることが必要ではないか。若者の感覚は昔と変わってきており、そういう方たちに本県に移住してもらうためには、こちらの意識を変えて対応していくことが必要。

- ・IoTを取り入れる場合でも、数値やデータの活用が必須となる。そのため、データを分析し、活用できる人材の育成が必要。若者はそうしたことができる会社、仕事を求めている。

### ⇒ (農業振興部)

- ・映像による見える化は参考になった。IoTに関しても、農業分野では、環境制御技術として、ハウス内の環境をネット上で管理する取り組みを進めており、今後さらに広めていきたい。

### ⇒ (産業振興推進部)

- ・会議の運営については、時間の使い方、ポイントのみの説明等、もっと議論ができるように今後検討したい。
- ・IoT、可視化、数値を活用できる人材をどう育てていくのか、すべてつながっている話だと思う。そういう視点でどう情報を伝えていけるのか、もう一度考えていかなければならない。

## 【②産学官連携による力強い産業の礎を築く】

## 【③起業や新事業展開の促進】

### (D委員)

- ・起業する人は、どういった方をイメージしているのか。例えばひとりでも起業なのか、若しくは技術や資産があって10億円を目指すような人なのか。
- ・産業振興計画の取り組みとしても、例えば10億の売上高の企業をいきなり作るより、1千万の企業を100社作る方がいいのではないかと考えている。

### ⇒ (産業振興推進部)

- ・いろんなケースを想定している。中山間地域でのひとりでの起業も含めて、起業の初期段階の方からサポートすることにしており、アイデア段階から事業化までの起業全体のサポートの仕組みのなかで大きな産業に育ててもらえればと考えている。
- ・補足だが、起業関連の取り組みは、地産外商をさらに強化し、拡大再生産の好循環につなげていくテーマの一環として位置づけており、県内市場で収まってしまような飲食業や理美容ではなく、外商につながるようなものを念頭に置いている。

### (E委員)

- ・産業振興計画は第3期になって枠組みはでき上がっている。その枠組みを活用し、民が腰を上げて動ける体制をとることができるかがこれからの課題。  
将来の生活設計ができないから担い手が減っている。産業界も一緒になって動く必要があるが、経営戦略を作ることが民を動かす1つの手法となると思う。

### ⇒ (産業振興推進部)

- ・産振計画がスタートして8年余りになるが、ずいぶん当初と状況も変わってきている。官民が一緒に取り組む雰囲気も出てきた。事業戦略づくりについても心配していたが、71社が取り組みを進めようとしており、前向きにとらえられている。
- ・情報をどう伝えるかについても大切なことで、面白さが伝わる様に取り組みを進めていきたい。

### (D委員)

- ・【資料2 P7】林業分野について、情報発信がカギを握ってくる。ここが1か100かで結果が変わってくる。ホームページを作って終わっていないか、告知で終わっていないか等、魅力づくり、話題性づくりに努めていただきたい。

### (C委員)

- ・起業に関してはハウツー本が多くあり、資金に関してもベンチャーキャピタルもある環境で、やる気がある人は独学でも対応できるのが現状。  
マニュアル化できないことに取り組むことが起業支援や産業を強くするためには重要。マニュアル化できないことを解決していくためには、オープンイノベーションが非常に大切になる。他社、異業種の方と組んで対応することが重要。そうした仕事の

仕方が今主流となってきている。今の学生も数年後にはすぐに社会人となる、是非教育面でも、これからの仕事の仕方を念頭において、得意なものを作る取り組みをお願いしたい。

**(F委員)**

- ・各分野が同じ様にすそ野を広げて募集をしている状況で、もっと連携することができるとよい。例えば、観光では町おこしとして観光に関係ない事業者の方と連携して盛り上げている事例もある。各分野が一緒になって担い手を作っていけるようになればよい。

**⇒ (産業振興推進部)**

- ・地域産業クラスターの取り組みも進めているが、いろんな分野の人が地域を考えていくことになると思う。そういった中で、流れのある連携を考えていきたい。

以上